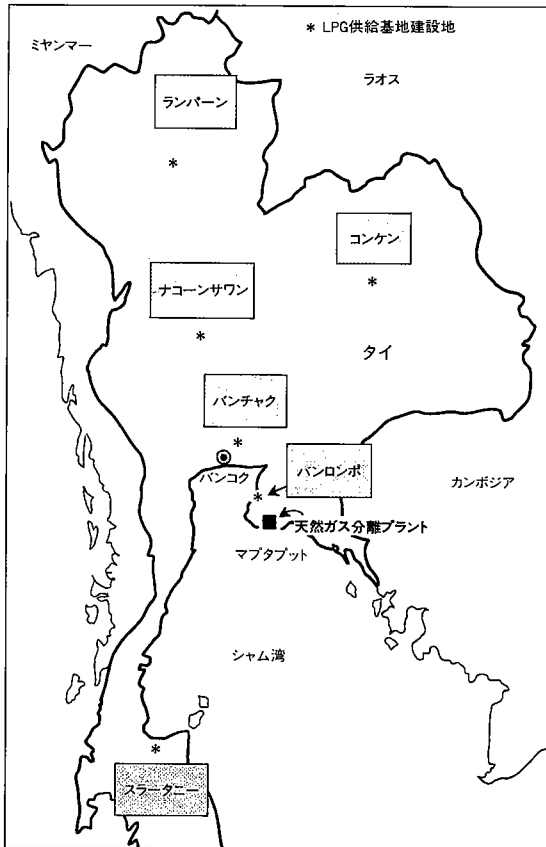


LPG配送事業

タイ

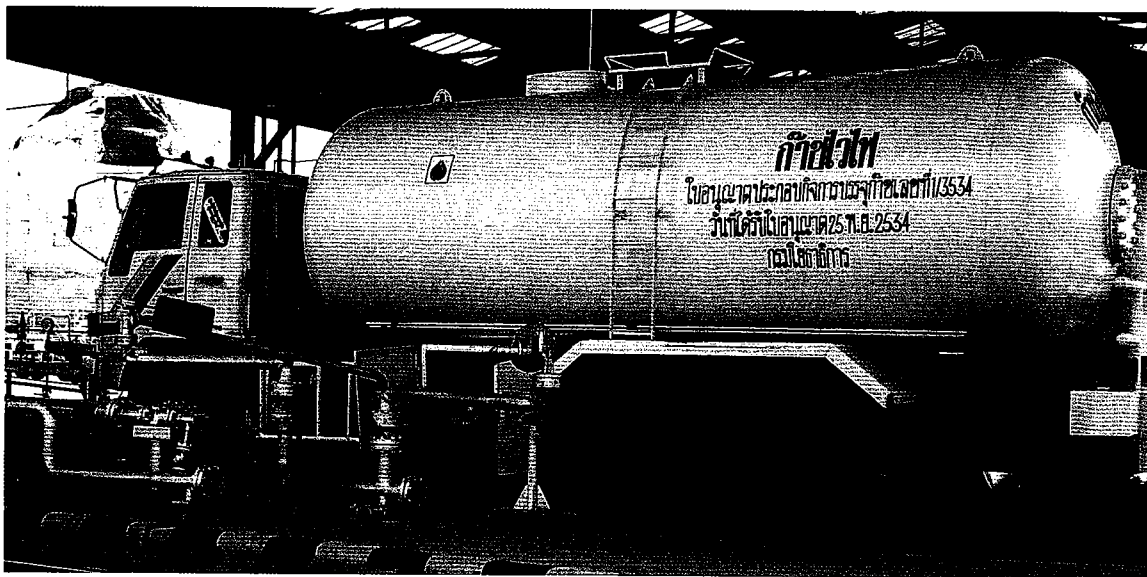


■事業概要

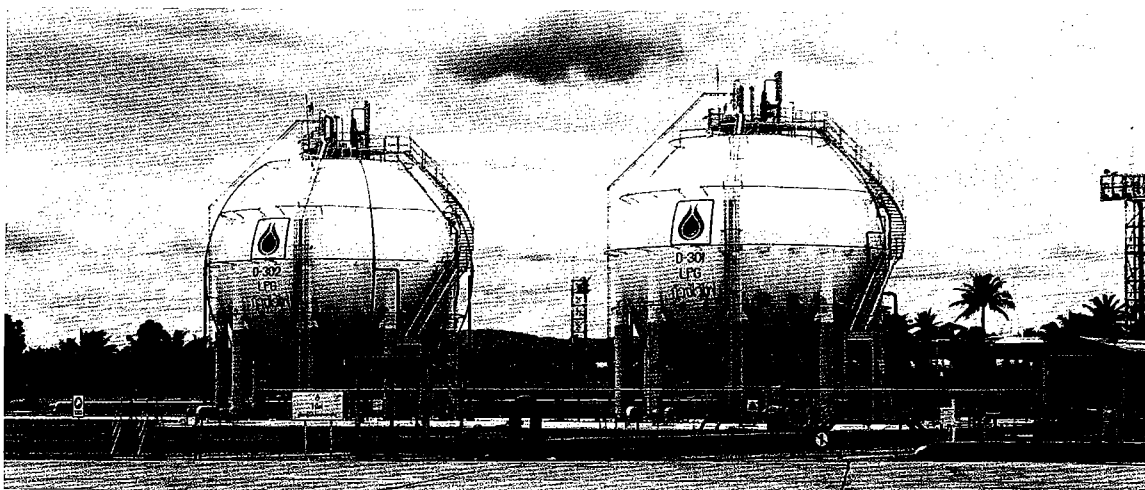
借款契約締結年月	借款金額
1983年 9月	117億3,000万円

タイでは従来からエネルギー源として、石油製品に依存する割合が高く（1981年で約45%）、しかもそのほぼ全量を輸入に頼っていることから、石油ショックによる原油価格高騰や輸入量の増加の影響で、貿易収支が悪化する傾向にありました。そこで1982年に始まる第5次5カ年計画ではエネルギー部門における石油依存度の軽減を図るための諸政策の一つとして国産天然ガスの有効活用が掲げられました。

同国の天然ガス開発は1960年代後半から開始され、1970年代中頃までには約10カ所の天然ガス田の発掘に成功しています。同国にとって、これらの天然ガス田の発見は農業国から工業国へと転換する足掛かりとして大いに期待され、1979年には日本輸出入銀行等から資金を導入して海底ガス田



▲ 8トンの容量をもつタンク・ローリーが18台調達されました。



▲ バンロンボ供給基地のLPG貯蔵タンク

からバンコク近郊迄のパイプライン建設に着手し、1982年にはOECD借款・世銀融資により、天然ガスを各種ガスに分離して有効活用を図るための天然ガス分離プラント建設事業が開始されました。本事業はこの天然ガス分離プラントで生産されたLPG（液化石油ガス）を全国各地に供給するための配送網を整備するために実施されました。具体的には、全国6カ所にLPGタンクを有する供給基地を建設するとともに、供給基地間でLPG輸送するための鉄道タンク車、タンク・ローリー、及び各需要家へ配送するためのシリンダーの調達が行われ、1985年10月から運用が開始されています。なお、OECDはこれらに必要な費用に加え、安全管理基準作成等を担当するコンサルタントの雇用費に対して借款を供与しました。

■運用状況と効果

本事業の実施機関であるタイ石油公社（PTT）は、天然ガス分離プラントを利用して同国のLPG生産量の約70%を生産しており、この内の約50%が本事業によって建設されたLPG供給基地を通じて各需要家へと配送されています。地域別にみた場合、バンコクを中心とした中央部では予想を上

回る勢いで普及している一方で、地方部における普及は必ずしも順調には進んでいません。これは、地方部の家庭にとっては燃料を木材・木炭からLPGに転換するために必要なガスコンロ等の設備購入が家計の負担になるとともに、特に農村部では所得水準に比べてLPG価格そのものにも割高感があるためと思われます。従って、今後はLPG用器具のレンタルによる設備費の軽減等の手段によって、地方部におけるLPG普及を推進していくことが重要な課題であると思われます。地方部での普及については課題が残されているものの、本事業を実施したことによる直接的な効果としては、地方部に対してLPGを一度に大量輸送することが出来るようになり、また地方部でのLPG貯蔵も可能となったことから、全国各地におけるLPG需要に対する即応体制が整備されたことが挙げられます。このことは現在のLPG需要に対応するのみならず、今後の地方部におけるLPG普及率の向上に大きく貢献していくものと思われます。

なお、同国東北部の都市コンケン市において本事業の受益者を無作為に15人選択して実施したアンケート方式によるサンプリング調査結果を紹介しておきましょう。

LPG配送事業



▲ 最終需要家にLPGを供給するためのシリンダーも本事業によって調達されました。

(1)何の用途にLPGを使っていますか。

炊事用(13) (2) → 工業

(2)LPGを使い始める前にはエネルギー源として何を使っていましたか。

薪・木炭(7) 電気・ディーゼル(8)

(3)従来のエネルギー源と比較してLPGの良い点は何ですか。(複数回答)

入手しやすい(10) 価格低廉(9) 効率が良い(8) クリーン(6) その他(7)

(4)どのようにしてLPGの便利さを知り、使い始めましたか。

近所の人(7) (5) → 農協(1)

販売業者 タイ石油公社(PTT)(2)

(5)LPG販売・配達サービスには満足していますか。

満足(8) (5)

大変満足(2) 満足していない・無回答

(6)LPG配送事業が日本の援助で行われたことを知っていますか。

知っている(10) (5) → 知らない・無回答

(評価時期：1993年1月)